

# インパクト志向金融宣言への署名について (2024年4月版)

1. インパクト志向金融宣言の概要
2. 運営体制と活動内容
3. 署名のメリット
4. 署名資格・署名手続き
5. Q&A

# 1. インパクト志向金融宣言の概要：宣言文

- **「インパクト志向金融宣言」は、民間の金融機関主導のイニシアティブ**  
**“金融機関の存在目的は包括的にインパクトを捉え環境・社会課題解決に導くことである”、という想いを持つ複数の金融機関が協同し、インパクト志向の投融資の実践を進める**
- **参加機関は、組織の代表者の名で署名を行い、以下の【宣言文】を実践していくことにコミット**

**01** 金融機関が社会から期待されている役割を果たすためには、その経営においてインパクト志向を持つことの重要性を理解しており、インパクト志向の投融資<sup>※1</sup>を各参加金融機関において実践するように取り組んでいく。

**02** 金融機関がその投融資活動を通じて生み出すインパクトを可視化し、投資戦略や投資判断に活用しインパクト創出に向けた努力を継続することが必要であると考えており、IMM<sup>※2</sup>を伴う投融資活動や金融商品の提供を推進する。

**03** 以上の取り組みに関して、それぞれの組織の状況に応じて自らの計画を策定したうえで、実践されたベストプラクティスや推進上の課題を署名者間で共有・議論することを通じて、この活動が持続的に発展できるように運営していく。

**04** IMMの質の向上やインパクト志向の投融資の量的拡大に向けて、署名金融機関のワーキングレベルで、意見・情報交換および必要な調査研究など、協調的な活動を行っていく。

**05** 本宣言に参加していない金融機関を含む我が国の金融業界全般にインパクト志向の金融機関経営の在り方やIMMの取り組みが波及していくように協調して活動を行う。

**06** 海外で取り組まれているインパクト志向の投融資やIMMの推進にかかるイニシアティブに意欲的に参加し、国際的なインパクト志向の投融資の推進に貢献するとともに、我が国からの発信を積極的に行っていく。

**07** この活動を、我が国金融業界が、自律的にインパクト志向の投融資を持続的に発展させることができるようになるまで継続する。

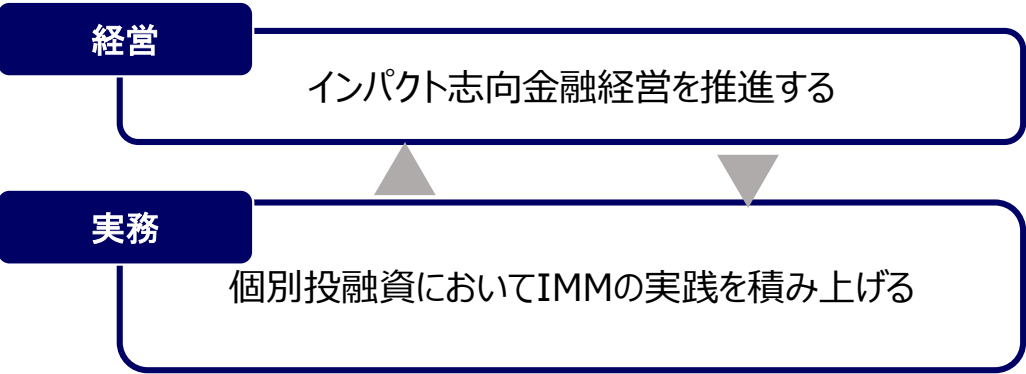
※1 ここで言う「インパクト志向の投融資」とは、GSG 国内諮問委員会の定義する「インパクト投資」と同義である。融資・債券・上場株式・未公開株式などあらゆる金融形態を含む。

※2 「インパクト測定・マネジメント (IMM)」とは、金融機関がその投融資活動を通じて生み出すインパクトを測定して可視化するとともに、戦略の策定や投資先とのエンゲージメントを通じて創出されるインパクトを管理することを言う。

# 1. インパクト志向金融宣言の概要：特徴

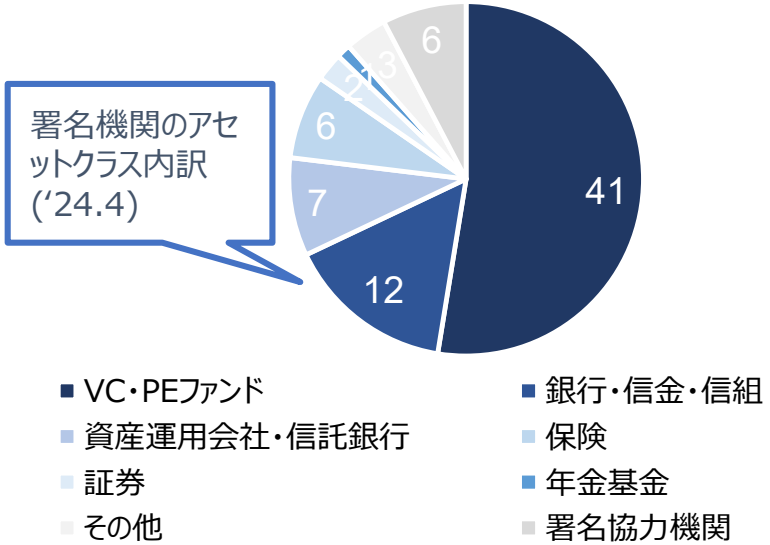
- 「インパクト志向金融宣言」は、個別投融資におけるIMMの実践を積み上げていくというボトムアップのアプローチと、インパクト志向金融の経営を推進することを通じ、金融機関の業務全体にインパクト志向の金融を拡大させていくというトップダウンのアプローチの、双方からの取り組みを推進
- この取り組みを複数の金融機関でアセットクラス横断的に推進していくことで、金融機関が扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させていくことを目指す

【トップダウン・ボトムアップ双方からの取り組み】

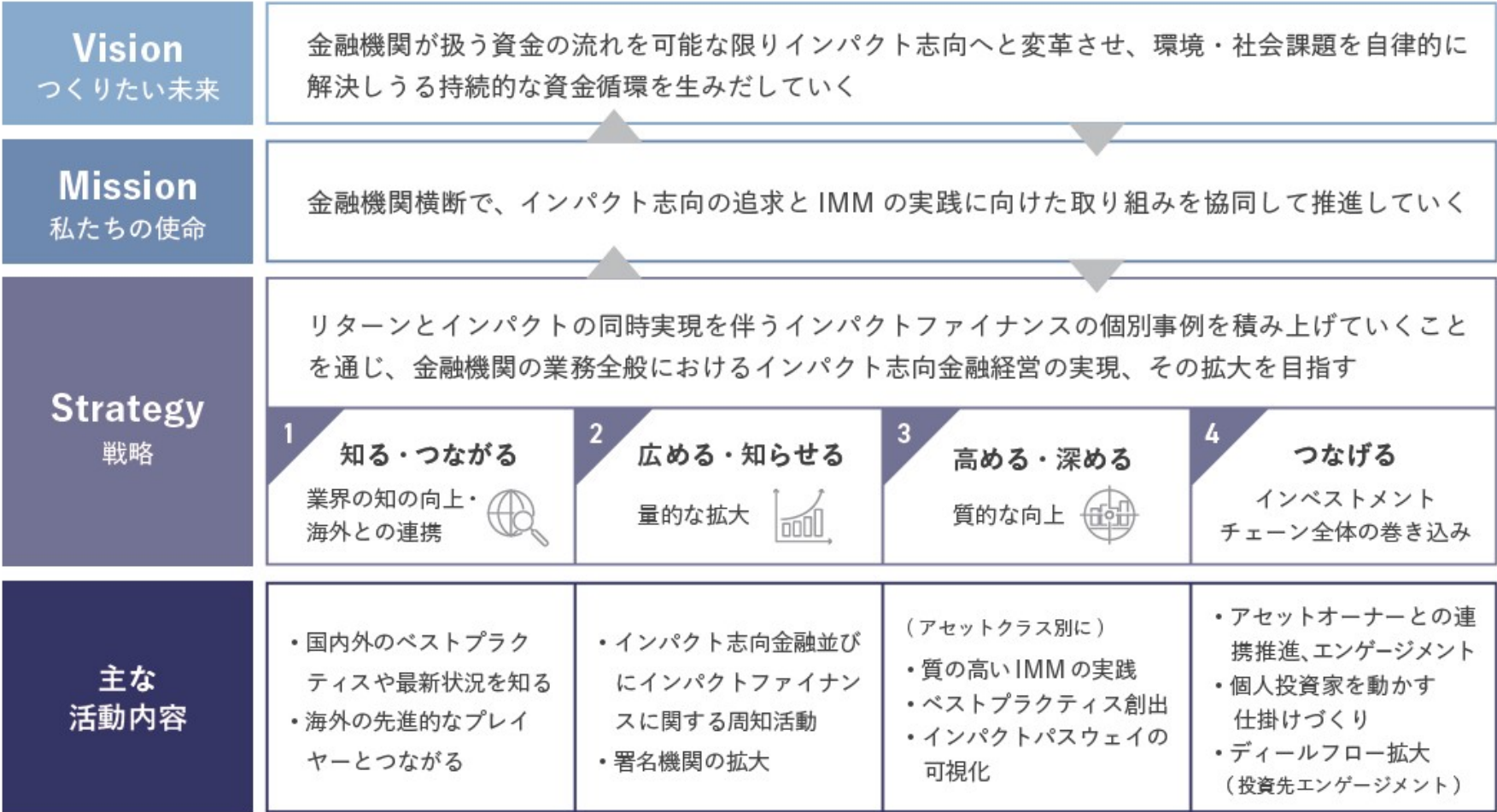


【アセットクラス横断での推進】

署名機関72社 署名協力機関6社



# 1.インパクト志向金融宣言の概要：Theory of Change (ToC)



# 1.インパクト志向金融宣言の概要：中期計画

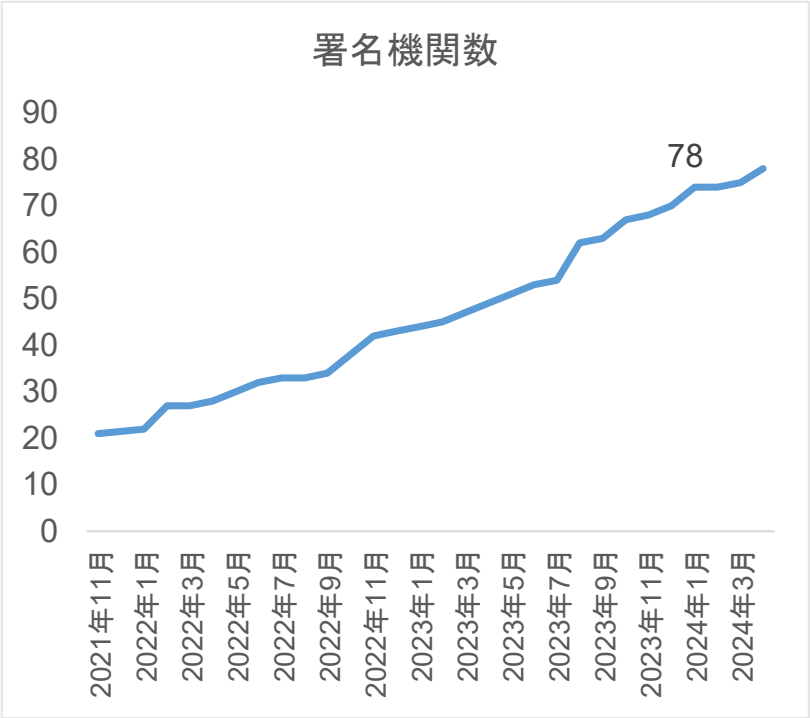
- **集中討議等を経て、2023年7月のワーキングレベル会合において、インパクト志向金融宣言では、発足1年を機に、今後3年間で視野に入れた中期計画を策定**
- **「中期計画」には6本の柱からなり、活動内容を掲げている**
- **分科会を通じた活動と、全体の活動として推進するものに分類されている**

	活動内容	優先度	役割
01 インパクトファイナンスの実践を支援する包括性の高い活動を継続する	・ 署名機関間の情報共有やピアラーニングによる実践の悩み解決、実践の蓄積、象徴的事例の創出	○	VC、地域金融、S指標
	・ 海外の最新動向やフレームワークの紹介	○	海外連携、各分科会
02 先進事例・データ・ツールを意欲的に収集・分析し、指標や指針を開発する	・ 先進事例の情報収集・共有（クロスオーバー投資や非上場・上場の連結の好事例、IMMや開示の好事例等）	○	各分科会、IMM
	・ インパクト関連データの整備・作成・集約・公開*	△	事務局/IMM/各分科会
	・ 参加金融機関のベンチマーク調査（IMM実践等）・ピアレビュー	△	事務局/IMM/各分科会
	・ 社会性指標の開発、基準や指針の整理、コンセプト開発	○	S指標、VC、地域金融
03 人材の育成を推進する	・ 金融機関がインパクトファイナンスを推進していくために必要な多様な人材の育成、確保	○	各署名機関、各分科会、事務局/IMM
04 活動内容や成果、インパクト創出事例を定期的・戦略的に発信する	・ 活動内容や成果に関する情報発信（対金融業界、対事業会社、その他対マスメディア向け）	○	事務局/IMM、海外連携
	・ インパクト大賞、認証制度の創設	△	プロジェクト
05 戦略的エンゲージメントを推進する	・ 対金融機関内部（金融機関経営者を含む）とのエンゲージメント	○	各署名機関、事務局/ELT
	・ 対政策立案者（政府・自主規制機関）、資金の出し手（個人、年金基金）、投資先、証券会社等とのエンゲージメント	○	地域金融、VC、AO/AM
06 プラットフォーム運営・活動基盤を強化する	・ 自走化計画の策定・移行	○	自走化検討
	・ ガバナンスや運営規程の策定、情報蓄積・共有の仕組み構築、ブランド力の強化、包括性の維持、あたらしい金融の在り方検討	○	事務局/プロジェクト



# 1.インパクト志向金融宣言の概要：発足後の成果

- 2021年11月29日に21の署名機関で発足、2024年4月時点で77機関へ
- 2023年には中期計画を策定、分科会の立ち上げを進め、各テーマに沿って本格的な活動を加速
- 2024年1月のインパクトファイナンス残高は10兆円を初めて超える



レベル1+2 合計 **10,723,999** 百万円

環境 

合計 **5,175,701** 百万円

社会 

合計 **872,487** 百万円

環境 & 社会 

合計 **4,675,811** 百万円

	環境	社会	環境 & 社会	合計
2	1,085,472 百万円	207,105 百万円	2,912,684 百万円	4,205,261 百万円
1	4,090,229 百万円	665,382 百万円	1,763,127 百万円	6,518,738 百万円
0	2,452,103 百万円	2,780,241 百万円	1,832,747 百万円	7,065,091 百万円
	環境	社会	環境 & 社会	合計
1 + 2 合計	5,175,701 百万円	872,487 百万円	4,675,811 百万円	10,723,999 百万円
0 + 1 + 2 合計	7,627,804 百万円	3,652,728 百万円	6,508,558 百万円	17,789,090 百万円

\* 投資カテゴリーの振り分け及び投資残高の算出は、ガイダンスに沿った上で各機関の判断に拠ります。  
 \* 残高および合計額は端数の処理によって微差が生じる場合があります。  
 \* 原則として2023年6月末の残高を合計していますが、他の時点の場合もあります(各社のページを参照ください)。

## 2. 運営体制と活動内容

- **運営委員と分科会の座長・副座長が月に1度、運営委員会を開催**
- **四半期に一度の総会（全社合会、ワーキングレベル合会）に全署名機関・賛同機関が参加**

### ■ 監事

（委員長）

- 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 フェロー役員 金井 司

（副委員長）

- リそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 常務執行役員責任投資部担当 松原 稔

（委員）

- コミュニティ・バンク京信 ソーシャル・グッド推進部 部長 石井 規雄
- 株式会社静岡銀行 コーポレートサポート部 理事部長 岩本 進也
- 第一生命保険株式会社 責任投資推進部 部長 岡崎 健次郎
- 三菱UFJ信託銀行株式会社 MUFG AM サステナブルインベストメント フェロー 加藤 正裕
- 株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ（KII）プリンシパル 産学連携学会 理事 宜保 友理子
- 株式会社みずほフィナンシャルグループ サステナブルビジネス部 副部長 末吉 光太郎
- 株式会社DGインキュベーション 堤 世良
- 株式会社SBI新生銀行 執行役員 サステナブルインパクト推進部長 長澤 祐子
- リアルテックホールディングス株式会社 取締役社長 藤井 昭剛 ヴィルヘル
- GLIN Impact Capital 代表パートナー 中村 将人
- 株式会社かんぽ生命 執行役員兼運用企画部長 野村 裕之
- 株式会社キャピタルメディカ・ベンチャーズ 青木 武士
- 明治安田生命相互株式会社 運用企画部 責任投資推進室 室長 細川 真典

## 2. 運営体制と活動内容（アドバイザー）



■ 水口 剛氏

高崎経済大学教授



■ 木村 武氏

責任投資原則（PRI）理事



■ 松山 将之氏

株式会社日本政策投資銀行  
設備投資研究所 主任研究員



## 2. 運営体制と活動内容

- 「分科会」はアセットクラス別やテーマ別といった“縦ぐし”で有志のメンバーが集まり、議論・情報共有を行う会議体、「運営委員会」や「企画チーム/プロジェクトチーム」は、“横ぐし”機能を担い、プラットフォーム全体に向けた活動を推進していく会議体



## 2. 運営体制と活動内容

- 各分科会は、おおむね月に1回開催(参加できる分科会の数登録メンバーの数は特に制限なし)

企画チーム (※)	座長 (2024年1月時点)
算入基準検討チーム	事務局(SIIF)
IMM企画チーム	今田 克司(SIMI)
海外連携企画チーム	藤井 昭剛(ヴィルヘルム(リアルテック))/中村 将人(GLIN)

分科会 (※)	座長 (2024年1月時点)
地域金融分科会	金井 司(SMTH)/山崎剛 (静岡銀行)
ソーシャル指標分科会	松原稔(りそな)/石井規雄(京都信用金庫) /朝野美里 (SBI新生銀行)
ベンチャーキャピタル分科会	堤世良(DGインベション)/秦雅弘(GLIN)
アセットオーナー・アセットマネジメント分科会	松本陽子(ティーロープライス)/安間匡明(SIIF)
融資・債券分科会	末吉光太郎 (みずほ銀行) /清水一滴 (大和証券) /橋爪麻紀子 (日本総研)

※分科会は、追加や変更の可能性があります。

## アセットオーナー・アセットマネジメント分科会

### 活動目的 アセットオーナー・アセットマネージャーの参画を拡げる

インパクトファイナンス推進のためには、実際に投資を行う投資家の意図・戦略の有無およびコミットメントの強さが重要な要素となります。銀行による融資と異なり、上場株式、債券、オルタナティブでは、保険会社・年金基金・地域金融機関などアセットオーナー自らのインパクトファイナンスに対する関心が高まらなければ、資産運用会社の取り組みは空回りしてしまいます。

我が国では、大手生命保険会社の多くは既にインパクトファイナンスに取り組み始めていますが、業界全体としての関心はまだこれからという状況です。年金基金においては、公的年金・企業年金を問わず、最近までインパクトファイナンスへの強い関心はみられませんでした。

本分科会は、生保・損保を問わず、中小の保険会社に向けてインパクトファイナンスへの関心を呼び起こす活動を行うとともに、インパクト志向金融宣言事務局とも連携しながら、年金基金によるインパクトファイナンス参画を引き出すべく取り組んでいます。その新たな動きの1つとして、2023年8月、以前よりPRI署名を行っていた肥後銀行の企業年金基金が、本体の銀行とともにインパクト志向金融宣言に署名しました。

本分科会は、2023年10月にメンバーを大幅に拡充しており、今後は特に新たなアセットオーナーの取り込みに向けてインパクトファイナンスへの関心を引き出し、投資参画にはさらに何が必要なのかを引き続き考えていきます。

### 2023年 活動報告 インパクトファイナンスの未来を考えるセミナーを開催

2023年5月22日に、インパクトファイナンスに実際に取り組んでいる本分科会メンバーによるポートフォリオへの導入事例や未上場株式・上場株式を対象としたインパクトファイナンス事例の共有を通じ、インパクトファイナンスの未来について考えるセミナーを開催しました。

基調講演では、水口教授より「インパクトファイナンスへの期待」と題し、インパクトファイナンスの発展に向けた期待についてお話しいただきました。続いて、ティー・ロウ・プライスのパルクリシュナ氏が、SDGsの達成には大きなファンディングギャップがあることから、上場企業の活動をインパクトの創出に向けることの重要性を強調しました。パネルディスカッションでは、本分科会メンバーがそれぞれのインパクトファイナンスの状況や具体的な事例について共有しました。ここでは、投資対象の選定方法、課題、IMMのアプローチに関する議論が行われました。

参加者のアンケート結果からも、IMMのアプローチや専門人材の不足などが課題として浮き彫りになりました。本分科会は、今後も関係者間にて課題やベストプラクティスの共有を通じてインパクトファイナンスの発展への貢献を目指します。

今後は、「投資先企業が生み出すインパクトと長期的な企業価値との関係性は如何なるものか」という本質的な分析課題にも勉強会などを通じて取り組みながら、リターンを伴うインパクトの創出という観点で金融資本市場からの強い関心を引き出していけるように、活動を活発化していきたいと考えています。その他、宣言のメンバーに限定することなく、広くセミナーの開催なども行ってまいります。

### アセットオーナー・アセットマネジメント分科会 参加機関

\*太文字... 分科会産長

ティー・ロウ・プライス・ジャパン／社会変革推進財団 (SIIF)／アセットマネジメント One／かんぽ生命保険／ZUU／第一生命保険／大和証券グループ本社／taliki／ファルス／三井物産オルタナティブインベストメンツ／CSR デザイン環境投資顧問／科学と金融による未来創造イニシアティブ

## ソーシャル指標分科会

### 活動目的 地域の課題解決と企業の持続可能性向上に寄与する視座・指標を検討

金融機関の役割は、社会の持続可能性を高めるとともに、地域社会の主たる役割を担う企業の持続可能性を高めることです。ソーシャル要因には、社会の発展と企業の持続可能性向上が密接に結びついています。

本分科会は、これまで地域社会の発展とともに企業が果たしてきた役割に加え、パーパス経営など企業の存在意義や目的を明らかにすることで、社会課題解決と企業の持続可能性を高める動きを後押しします。そのために、何が行動変容（セオリーオブチェンジ）につながるのかを考え、地域社会の希望を創出し、これらに関わるすべての人が「自分も社会課題の解決に主体的に関われるんだ」という手触り、手ごたえを感じられるような視座・指標を検討します。

当面の活動として、SDGインパクト等の世界的潮流、国内金融機関の事例などの情報を共有し、金融の業態や特性に応じた、各企業を見る視点、エンゲージメント手法を検討します。また、あらゆる企業がソーシャルに起因する非財務価値の重要性を認識し、経営に浸透させるための仕組みや開示方法等も検討していきます。

将来的には、他分科会と連携しソーシャル指標を中心に地域社会へのインパクトを生み出し、企業の行動変容を金融機関から働きかけていくための指標を検討します。ただし、共通指標だけでなく、それぞれが抱えるテーマを出し合い、コアな共通因子を見付け、改善するための行動変容と社会へのインパクト創出を目指します。

### ソーシャル指標分科会 参加機関

\*太文字...分科会座長

りそなホールディングス／**京都信用金庫**／SBI 新生銀行／九州みらいインベストメンツ／GLIN Impact Capital  
／SIIF インパクトキャピタル／JP インベストメント／第一勧業信用組合／大和証券グループ本社／但馬信用  
金庫／taliki／DG インキュベーション／ドリームインキュベータ／肥後銀行／ファルス／ベンチャーラボイン  
ベストメント／みずほ銀行／三井住友銀行／三井住友トラスト・ホールディングス／CSR デザイン環境投資顧問  
／社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (SIMI)

### 2023年 活動報告 国際的なインパクト指標や国内の事例などをインプット

2023年は、各金融主体がそれぞれの経営方針の中で取り入れるべき指標を検討するために、国際的な視点でのインパクト指標や、国内の行政や調査研究委員会での学びのインプット、共創共創プラットフォーム運営事業者様の講演などを行いました。主な内容は以下の通りです。

- 国際的視点での社会的インパクト指標についてSDGインパクト基準、その実践のための行動を学び、国内の動きとして金融庁のソーシャルプロジェクトで議論されている社会的な効果に関する指標等の例や、国交省、デジタル庁でのソーシャル指標に関連する取り組みを学びました。
- 働き手にとって働きがいのある人間らしい仕事の実現のための日本版ディーセント・ワーク8指標の調査研究委員会から、その社会的背景として日本が直面している社会課題を発表いただき、意見交換を実施。当指標が企業価値向上につながったストーリーや、国際的なサステナビリティ情報関連基準との関係も披露いただきました。
- IMM分科会の座長をお招きし、IMMにおけるソーシャル指標の位置づけに加え、インパクトレポートの規範作り、ソーシャル指標分科会として国内指標を考えるうえでの参考資料をご紹介いただきました。
- 課題解決の促進と企業価値向上に関連付け、ローカルから国全体のサステナビリティ向上を目指す共創共創プラットフォームを運営する事業者様に、事例紹介に加え課題や今後の展望などを共有いただき、意見交換を実施。

さらに今後は、分科会参加者の自社内の事例を共有するとともに、カタログ化や指標化も検討する予定です。



## 地域金融分科会

### 活動目的 地域金融機関におけるインパクトファイナンスのあるべき姿を探る

本分科会は、「地域課題の解決や地域経済の活性化、ひいては持続可能なまちづくりに向けた金融の主体的な役割を確立する」「日本経済再興への貢献も視野に入れ、スタートアップを含む中小企業の成長を後押しする金融の主体的な役割を確立する」を目標に掲げて活動しています。中期計画に「金融機関と投融資先企業等が、地域視点を踏まえたインパクト共創のプラットフォームを構築する」を定め、戦略テーマ「①地域インパクトの底上げのための情報発信、②インパクトを基点とした地域金融機関の融資業務とファンドの投資業務の接合のあり方、③地域インパクトファイナンスの共通指標の検討」に基づいて議論を行っています。

本分科会には様々なアセットクラスが集まっており、お互いの事例を共有し合うことは非常に有意義な一方、投資手法・対象企業が異なることなどから共通項を見出す難しさにも直面しています。しかし、地域社会にインパクトを広めたい思いは共通です。多様性を強みと捉え、各アセットクラスに期待される役割と投融資対象先を整理しながら、「社会価値の創造」と「企業価値の向上」に取り組む企業を支援する資金提供プレイヤーを増やしていき、地域におけるインパクトファイナンスのあり方を発信していきたいと思っております。

### 地域金融分科会 参加機関

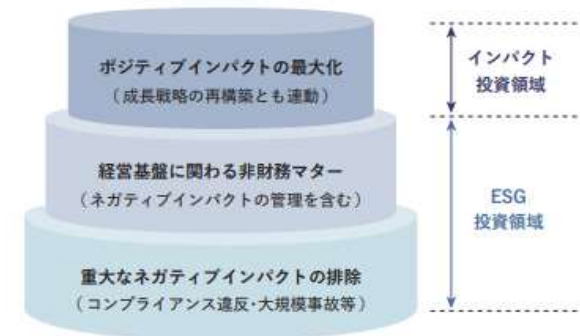
\*太文字 ... 分科会座長

三井住友トラスト・ホールディングス／静岡銀行／ARUN Seed／SBI 新生銀行／かんぽ生命保険／京都信用金庫／JP インベストメント／シグマクス・インベストメント／信金中央金庫／ZUU／スパークル／第一勧業信用組合／但馬信用金庫／日本 PMI パートナーズ／肥後銀行／ファルス／フューチャーベンチャーキャピタル／プラスソーシャルインベストメント／ベンチャーラボインベストメント／みずほ銀行／三井住友銀行／ミュージックセキュリティーズ／山口キャピタル／りそなホールディングス／CSR デザイン環境投資顧問

### 2023年 活動報告 「地域 PIF の三層構造モデル」が公的ガイドブックに採用

2023 年は「地域インパクトファイナンスの取り組み事例」の共有のほか、「アセットクラス、投融資先の規模に応じた区分整理（4 象限モデル）」、「地域 PIF（ポジティブ・インパクト・ファイナンス）の三層構造モデル」等について議論してきました。

企業価値の向上を目指す上では、中小企業にとってのマテリアリティを包括的かつ統合的に把握する必要があります。「地域 PIF の三層構造モデル」は、下位の二層を企業価値の毀損の抑制・成長を支える基盤要素である ESG 的な領域と捉え、第一層を各々の企業がポジティブインパクトの最大化を図る領域と定義しました。本分科会の共同座長を務める静岡銀行は、令和 4 年度環境省「ESG 地域金融促進事業」で「地域のインパクト可視化および IMM 体制の確立」に取り組んだ際に同モデルを提唱し、「ESG 地域金融実践ガイド」への掲載に至りました。今後も、他分科会との連携も強化していきながら、インパクト志向金融宣言内の議論の成果物を公に発表していきたいと考えております。



地域 PIF の三層構造（略図）

## ベンチャーキャピタル分科会

## 活動目的 VC業界に、インパクト追求とIMMを実践しやすい環境整備を

VC業界においてもインパクトファイナンスへの期待が高まる一方、インパクトの測定やマネジメント、開示等のルール・手法は発展途上で、実践知の蓄積も限定的である為、実務上のハードルの高さから、日本においてインパクトファイナンスを実践するVCはまだ少ない状況です。この状況を改善すべく、本分科会はビジョンに「VCが扱う資金の流れを可能な限りインパクト志向へと変革させ、環境・社会課題を自律的に解決しうる持続的な資金循環を生み出す」を掲げ、「VC業界においてインパクト志向の追求とIMMを実践しやすい環境の整備」を目的に活動します。その中心となるのは以下の3点です。

- ① 分科会メンバーの具体事例や海外の先進事例を共有しながら、各VCのインパクトファイナンスの実務レベルの知識を向上（各VCによるインパクトファイナンスの実践の為の支援）
- ② 各VCがインパクトファイナンスの実践で得た知見を踏まえた実務上の指針（共通認識）の整理
- ③ 各VCのインパクトファイナンスの事例の蓄積・発信

本分科会の活動を通じ、VC業界においてより多くの資金がインパクト志向となることを目指していきます。

## ベンチャーキャピタル分科会 参加機関

\*太文字...分科会座長

GLIN Impact Capital / DG インキュベーション / ANRI / SBI 新生銀行 / 環境エネルギー投資 / KIBOW / キャピタルメディカベンチャーズ / 京都信用金庫 / グローバル・ブレイン / グロービス・キャピタル・パートナーズ / 慶應イノベーション・イニシアティブ / SIIF インパクトキャピタル / JP インベストメント / シグマクス・インベストメント / Spiral Capital / スパークル / 大和証券グループ本社 / taliki / 日本ベンチャーキャピタル / BIG Impact / Beyond Next Ventures / ファストトラックイニシアティブ / ファルス / フューチャーベンチャーキャピタル / ベンチャーラポインベストメント / みずほ銀行 / 三井住友銀行 / 三井住友トラスト・ホールディングス / リアルテックホールディングス / 社会変革推進財団 (SIIF)

## 2023年 活動報告 2つの目標を設定し定期的な勉強会や意見交換を実施

今年、VC分科会は2つの活動目標を掲げました。

目標①：分科会メンバーの具体事例や海外事例を通じて、各VCの実務レベルの知識向上

目標②：VC分科会としてインパクトファイナンスの実務上の共通認識の初期的整理

目標達成に向け、毎月の会合と定期的なネットワーキング会を実施し、具体的には以下の活動を行いました。

目標①関連：分科会メンバーの実際の投資判断基準の共有、北欧VCの事例紹介、Impact VC（欧州のインパクトVCコミュニティ）作成の投資ガイドラインに関する勉強会、Big Society Capital / Impact VCのManaging Directorをお招きした勉強会

目標②関連：日本版のインパクトVCガイドライン初版に向けた意見交換・調査



2023年9月20日に開催した懇親会の様子

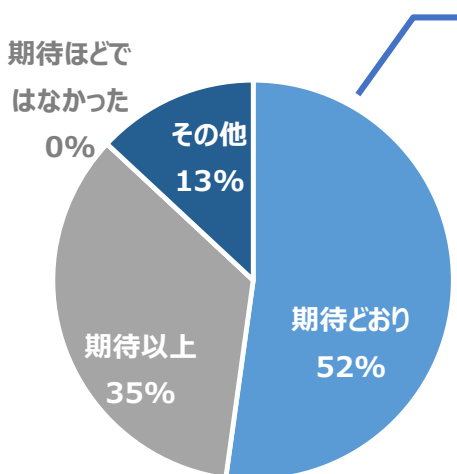
VC分科会メンバーは現在30機関（昨年比12社増）にのぼり、メンバーの皆様のおかげで非常にアクティブに活動しています。今後も分科会メンバー全員にとって魅力ある会であり続けながら、その先にあるインパクトファイナンスを行うVCが増え、その投資を受けた企業が創出するインパクトが増える社会の実現を目指して活動を続けていきます。



### 3. 署名のメリット

- 2022年10月に署名機関向けに実施したアンケートでは、参加してよかった点として、分科会活動や勉強会をととしたインパクト投資の理解促進、先行事例へのアクセス、署名機関間のネットワーク構築・情報交換、自社取組への反映といった点が挙がりました。
- 今後、海外連携の強化や本イニシアティブのブランド向上にも取り組んで行く予定です。

Q1：インパクト志向金融宣言に参加した感想



- ✓ インパクト投資の理解が進んだ、インパクト投資の考え方を「志向」するための社内の知識や意識醸成に役立った
- ✓ インパクトという動きが加速化した
- ✓ 分科会での先行事例紹介や、様々な方とアクセスできること
- ✓ 悩みなどを含めて情報交換ができるから
- ✓ 前向きな参加者による真摯な議論が行われており、市場の発展に貢献し得ること
- ✓ 内容が実際の投資に基づいたものであり、かつ先進的で、非常に勉強になる
- ✓ ネットワークの構築・情報共有
- ✓ 分科会での交流を通じてソーシャル認証制度への参加が決まった

Q2：一番よかった活動

分科会等	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 分科会活動、勉強会（7名）</li> </ul>
他機関とのつながり、業界ネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 他機関との意見交換、他社事例を知る事ができた</li> <li>✓ 業界ネットワーク構築(投資家含む金融機関へのアクセス)、関係者とのネットワーク拡充</li> <li>✓ 中小企業金融でのインパクト創出に興味のある金融機関が多いことを知れた</li> <li>✓ インパクトファイナンスに取り組まれる人達と繋がることができたこと</li> <li>✓ 民間主導でさまざまな取り組みが動き出したこと</li> <li>✓ 金融機関やVC等側の事業における社会性の理解や認知が広がったこと</li> </ul>
自社取組への反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 分科会での交流や勉強会参加を通じて自社の取り組みを具体的に考えることができたこと</li> <li>✓ 社内でのESG活動の認知度が上がってきた</li> <li>✓ 定期的に会合機会があることで、社内でもインパクトにかかる検討を共有する契機にもなること</li> <li>✓ 「インパクト指標を通じた対話」を進める議論を展開するきっかけとなった</li> </ul>

## 4. 署名資格・署名手続き

- 本宣言に賛同し、組織の代表者（基本的には社長、頭取、CEOなど）の名で署名を行って頂ける金融機関であれば、特に制限はありません。
- 署名手続きは、事務局からメールで「確認依頼状」を送付し、それに返信頂くというプロセスです（原本への捺印等は必要ありません）。詳細については、事務局までお問合せ下さい。

【事務局問い合わせ先】



一般財団法人社会変革推進財団  
担当：小笠原、中村、三井  
Email：impact-drivenfi@siif.or.jp

### ※費用負担について

現時点では会費は発生していませんが、2025年度～を目途に会費制を導入することを計画しています。

2024年1月時点で会費の金額等の詳細は未定であり、署名機関で議論を重ねたうえで、全社会合等で議決を諮ることになります。

## 5. Q&A

- よくある質問を以下にまとめました。その他の質問についても、お気軽に事務局までお問合せ下さい。

**問：他のイニシアティブとの差異はどのようなものがあるのか？**

**21世紀金融行動原則：**同原則は、持続可能な社会の形成に向けて金融として必要な取り組みを推進するものです。本宣言は、さらに踏み込んで、金融機関が自らの存在意義としてインパクトの創出に主体的に取り組む意向を持っていること、具体的な投融資や金融商品の開発において、インパクト測定・マネジメント（IMM）を実践することを推進していくことをうたっています。また、自主的な計画の策定や各社の取り組みを定期的に共有しあう仕組みが取り入れられており、より本格的に金融機関の組織的なインパクト志向を高め、かつ具体的なIMMを伴うインパクト投融資を推進する機関が参画する取り組みとなっています。

**責任投資原則（PRI）：**PRIはESG要素を投資の意思決定プロセスに組み込む投資家向けのイニシアティブですが、本宣言はESG考慮のみならず意図的にインパクトの創出を目指すという点が異なります。

**責任銀行原則（PRB）：**PRBは、PRIの延長線上にある銀行向けイニシアティブであり、社会・経済・環境面のインパクト分析を実施するという点がPRIよりも踏み込んだ内容となっています。PRBのインパクト分析では、既存事業の中で最も重大なポジティブ・ネガティブインパクトを与える分野を特定した上で目標/KPIを設定し、それを公開しモニタリングすることが求められています。一方で本宣言では、環境・社会課題解決への貢献を意図したインパクト志向の投融資において、インパクトの測定（Measurement）および管理（Management）を実施することを通じて持続的にインパクトの向上を目指していく取り組み（IMMの実践）を想定している点がPRBとは異なります。

**インパクト投資運用原則：**IMMの推進を目指す点では同原則も本宣言も同じです。本宣言は、「経営においてインパクト志向を持つこと」「IMMに関する取り組み定期的に署名者間で共有・議論すること」を求めている点が異なります。また、署名する国内金融機関が相互に連携した活動を行うことで、日本国内でインパクト投融資の量的拡大と質的な向上を目指す活動である点も相違点です。

## 5. Q&A

- よくある質問を以下にまとめました。その他の質問についても、お気軽に事務局までお問合せ下さい。

**問：「インパクト志向の投融資」とは、具体的にはどのような金融商品が該当するのか？**

宣言文の「注1」でも示したとおり、「インパクト志向の投融資」は、GSG国内諮問委員会の定義する「インパクト投資」と同義であり、融資・債券・上場株式・未公開株式などあらゆる金融形態を含みます。一方で、本宣言の署名機関は、全アセットクラスでインパクト志向の金融商品を展開している必要はありません。一部のアセットクラスで先行してインパクト志向の金融商品を展開している、もしくは今後特定のアセットクラスで取り組もうと計画しているなどでも構いません。各社の取り組みを定期的に共有しあう仕組みが取り入れられており、より本格的に金融機関の組織的なインパクト志向を高め、かつ具体的なIMMを伴うインパクト投融資を推進する機関が参画する取り組みとなっています。

**問：「インパクト測定・マネジメント（IMM）の実践に取り組むこと」とは具体的にどういうことか？**

具体的な取り組みの在り方やその水準は金融機関の属性により異なるため、本宣言においては「このレベルまでやるべき」といった統一的な基準は設けず、IMMの多様性を許容していく想定ですが、プログレスレポートでの開示においては、「算入基準」を設けています。